

アイルランド共和国の小学校における宗教教育 — カトリック新カリキュラムを中心に —

表 真 美

1. 研究の目的

(1) アイルランド共和国と宗教

アイルランド共和国は北海道ほどの国土に約460万人が暮らす西ヨーロッパの国である。1810年より英国に併合され、1949年に共和制を宣言（英連邦を離脱）した。公用語はアイルランド（ゲール）語と英語、2011年の国勢調査によると、84.2%がカトリック教徒である¹⁾。

英国による長期にわたる厳しい支配のもと、英国に対してアイルランドの社会の独自性を示すことが出来たのが、カトリックであることだった。19世紀以来、カトリック教会は教育や病院、福祉などの分野で重要な役割を果たし、アイルランド社会のなかに強固なネットワークを張りめぐらしてきた。1937年憲法は、信仰の自由を認めながらも、カトリック教会に「特別な地位」を与えている²⁾。

(2) アイルランドの学校制度

アイルランドの教育制度は教育・技能省によって定められ、初等、中等教育を無料で受けることが出来る。

義務教育は、初等教育から中等教育の前期にわたる6歳～15/16歳までの9年間となっており、学校予算の大部分は国からの補助金で賄われている。その後国内統一試験（Junior Certificate）を受け、中等教育の後期が終了する17/18歳まで教育を受ける者が多数を占めている。生徒は中等教育が終わる時点で、公立・私立にかかわらず国内統一試験（Leaving Certificate）を受け、高等教育への資格を取得する。アイルランドではこの試験の成績により、大学

進学先や就職先の決定に大きな影響が出るため、同試験が重視されている。

中等教育は、普通中等学校、職業学校、コミュニティ・スクール、コンプリヘンシブ・スクール（総合中等学校）で行われている。コンプリヘンシブ・スクールは、普通教育と職業教育双方の教科を用意し、生徒が各自の適正・能力に応じた教育を受けられるようにしている。コミュニティ・スクールは、双方の教科を提供するとともに、地域の成人に学習機会を与えることを目的としている。中等学校は民間経営であり、半数以上を修道会が運営、残りは学校法人等が経営している。殆んどの中等学校の教育費は無料である。職業学校は職業教育委員会によって運営されている。

後期中等教育を修了した者の約46%は大学等の高等教育機関に進学する。高等教育には総合大学、科学技術カレッジ、教員養成カレッジがあり、殆んどが国の予算で賄われている。私立のカレッジもあり、主にビジネス関連コースを提供している^{3)~7)}。

(3) アイルランドの学校と宗教

アイルランドでは、現在小学校の96%、また、普通中等学校のほぼすべてが特定の宗派により運営される私立学校である⁸⁾。学校の運営母体の多くは修道会（カトリック教会によって認可された宗教団体）が占めている。1831年に国民学校が成立し公教育制度が始まる過程で、キリスト教会による学校運営が決定づけられた⁹⁾。その後イギリスによる長い統治を経て現在も、歴史的経緯から、学校運営における宗派の位置づけには大きな変化がなく、宗派が学校の生活を特色づけている。しかし、財政面は国と地方が負担し公立に等しく、教育は無償である。また、教育課程は、全国カリキュラム・評価委員会の助言に基づき、教育大臣が決定している。さらに、学校の運営は宗派や個人が行う場合もあるが、多くは教師と親の代表や地域の識者などを含む学校理事会が行っている¹⁰⁾。

(4) アイルランド中等教育における宗教教育

アイルランド中等教育においては、必修教科は「アイルランド語」「英語」「数学」の3教科のみであり、その他の教科は選択教科である。宗教教育は選択教

科の一つとして位置付けられ、他教科と同様に教育スタンダード（ナショナルシラバス）が設けられている。2015年の全国統一試験によると、前期中等教育学校では、46%の生徒が「宗教教育」を受講していたが、後期中等教育学校では2%の選択であった。しかし、実際には後期高等学校でも多くの生徒が宗教教育を学んでおり、他教科とは異なる特殊な教科として扱われている。

前期中等学校のシラバスはA. 信仰団体、B. 宗教の基礎：キリスト教、C. 信仰の基礎：世界の主要宗教、D. 信仰への質問、E. 信仰の式典、F. モラルチャレンジの6つの内容があげられている。ナショナルシラバスの他に、教師の日々の授業に直接役立つ詳細な内容が示された教師用ガイドが、国から出されている。教科書はナショナルシラバスに忠実に準拠し、多くの具体例が示され、生徒に考えさせる内容である¹¹⁾。

（5）アイルランドの初等教育

1）概要

アイルランドの小学校は National School（国民学校）と呼ばれ、義務教育に加えて、2年間の就学前教育が併設されており、8年制である。就学前教育の義務はないが、4歳になると初等学校付設の幼児学級に入ることが出来る。Junior Infants が4～5歳、Senior Infants が5～6歳に設置されている。義務教育は6歳～15歳の9年間だが、多くの子どもは6歳以前の幼児学級から就学している。4歳児は4割、5歳児の殆んどすべてが小学校に在籍している。前述のように、修道会が運営し、民間経営と言えるが、学校予算の大部分は、国からの補助金で賄われている。

1学期は9月～12月、2学期1月～4月、3学期4月～6月である。我が国のような学区制はなく、子どもが通う小学校は、保護者が選択して決定する。徒歩圏内でなければ、保護者が送迎し、また、スクールバスを設けている学校もある¹²⁾。

2）小学校における必修教科

アイルランドの小学校における必修教科は、言語（①アイルランド（ゲール）

語、②英語)、数学 (③数学)、体育 (④体育)、芸術 (⑤美術 ⑥音楽 ⑦演劇 (ドラマ))、社会環境、および科学教育 (⑧歴史 ⑨地理 ⑩科学)、社会、個人、および健康教育 (⑪社会、個人、および健康科学)、および宗教教育 (⑫宗教教育) である。宗教教育以外の11教科において、アイルランドカリキュラム・評価委員会が詳細なナショナルシラバスを設けている。宗教教育には、ナショナルシラバスはなく、教育は各宗派に委ねられている¹³⁾。

(6) 研究の目的

アイルランドの教育に関する我が国の研究蓄積は極めて少ない。特に、アイルランドの小学校における宗教教育の詳細は、我が国に紹介されたことがない。そこで本研究では、カトリックから出された新しいカリキュラムの内容を中心に、アイルランドの小学校で行われている宗教教育の実際を明らかにすることを目的とする。

2. 研究の方法

本報告において用いた研究資料は、①教育・技能省による教育・初等教育に関する資料、②2校の小学校教員への聞き取り調査、および授業参観、③小学校宗教教育用教科書、および教師用指導書である。

(1) 教育・技能省による教育・初等教育に関する資料

当該資料は、教育・技能省のホームページより入手した¹⁴⁾。

(2) 2校の小学校教員への聞き取り調査、および授業参観

2017年2月15日に、アイルランド北西部の Sigo 近郊 R に位置する N 小学校の4年生、5年生クラスを訪問、4年生の担任教員 A 氏に聞き取り調査を行った。また、同年2月22日に、Sligo の U 小学校の Junior Infants クラスを訪問し、宗教の授業参観、担任教員 S 氏に聞き取り調査した。S 氏に対しては、2月16日、3月27日の放課後にも聞き取り調査を行った。S 氏は宗教教育を専門としており、現在、勤務を続けながら、大学で宗教教育を学んでいる。

いずれもアイルランドにおいて典型的なカトリック系小学校である(写真1)。

N小学校は、児童数230名、教員数12名のR地区で唯一の小学校であり、近隣に居住する家族の子どもが通っている。保護者の職業は農業が多く、親、祖父母も当校の卒業生であることが少なくない。また、U小学校は、児童数387名、教員22名の、国鉄駅やSligo市街にも近い住宅街に位置する小学校である。

なお、インタビュー調査の内容は、小学校における宗教教育に関するもので、調査対象者の個人的な情報は含まれていない。当該教員には調査結果の公表についての許可を要請し、文書による承諾を得た。



写真1 訪問した小学校（左：R小学校、右：U小学校）

（3）小学校宗教教育教師用指導書、および児童用ワークブック

2017年2月16日にU小学校に訪問した際、S氏より Junior Infants対象のワークブック¹⁵⁾を入手、また、同学年、および2年生対象の教師用指導書の複写を行った。

2015年「アイルランドにおけるカソリック就学前教育、小学校宗教教育カリキュラム」が、発行された¹⁶⁾(写真2)。このカリキュラムは、アイルランドカリキュラム・評価委員会により同年に提出された「小学校における宗教と信仰および倫理教育審議書」に拠るものである¹⁷⁾。

“Grow in Love”シリーズの教師用指導書、児童用ワークブックは、同年、上述のカリキュラムに従って、アイルランド聖公会教授委員会により作成された。訪問した2017年2月時点では、小学校で行われている就学前教育各学年、

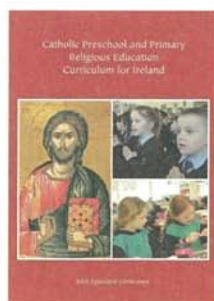


写真2 アイルランドにおけるカソリック就学前教育、小学校宗教教育カリキュラム
(Catholic Preschool and Primary Religious Education Curriculum For Ireland)



写真3 児童用ワークブック（左から4歳児、2年生用）

および小学校1年から4年生までの計6種が発行、使用されていた（写真3）。小学校5、6年生用（primary 7・8）は未発行であり、5、6年生は旧カリキュラムによる教育が行われていた。

3. 研究結果

（1）アイルランドにおけるカトリック就学前教育、小学校宗教教育カリキュラムの内容

カリキュラムの目的は、「カトリックの信仰の探求と祝典に出会うことを通じた、精神的・道徳的・宗教的生活において、子供たちを成長させる」ことである。内容は、①キリスト教信仰、②神の言葉、③典礼と祈り、④キリスト教

表1 カトリック小学校カリキュラムの内容

	レベル1	レベル2	レベル3～4
キリスト教の信仰	神の謎 イエス・キリストの謎 創造 教会の謎 永遠の命	神の謎 イエス・キリストの謎 聖霊の謎 創造 教会の謎 メアリー 永遠の命 その他の宗教的伝統	神の謎 イエス・キリストの謎 聖霊の謎 創造 教会／王国の謎 メアリー 永遠の命 その他の宗教的伝統
神の言葉	聖書 神聖な聖書の言葉 神の愛する救いの計画 イエスの誕生と青春 イエスの公的生活 情熱、死、復活	聖書 神聖な聖書の言葉 神の愛する救いの計画 イエスの誕生と青春 イエスの公的生活 イエスの情熱と死 イエスの復活と精霊降臨日	聖書 神聖な聖書の言葉 神の愛する救いの計画 イエスの誕生と青春 イエスの公的生活 イエスの情熱と死 イエスの復活と昇天 聖霊降臨日
典礼と祈り	祈り：正式な祈り 祈り：追加の祈り 祈り：自発的祈り 儀式的年 聖杯 ミサ	祈り：正式な祈り 祈り：追加の祈り 祈り：自発的祈り 儀式的年 聖杯 ミサ	祈り：正式な祈り 祈り：追加の祈り 祈り：自発的祈り 儀式的年 聖杯 ミサ
キリスト教の道徳	人間の尊厳 教会における社会教育 キリスト教の文脈における RSE (Relationships and Sexuality Education)	人間の尊厳 人間の自由と責任 神の偉大な存在と援助 教会における社会教育 キリスト教の文脈における RSE (Relationships and Sexuality Education)	人間の尊厳 人間の自由と責任 神の偉大な存在と援助 教会における社会教育 キリスト教の文脈における RSE (Relationships and Sexuality Education)

Irish Episcopal Conference “Catholic Preschool and Primary Religious Education Curriculum For Ireland” (2015) より筆者作成

の道徳の4領域に分かれている。

各領域の内容項目は、レベル1（就学前教育2学年）、レベル2（小学校1・2年生）、レベル3（小学校3・4年生）、レベル4（小学校5・6年生）の4つのレベルごとに示されている（表1）。

(2) アイランド初等教育で使用するカトリックの教師用指導書と児童用ワークブック

アイルランド聖公会教授委員会により作成された小学校におけるカトリック宗教教育用教材は、①教師用指導書、②児童用ワークブック、③CD、④ポスターセット、⑤オンラインリソースがセットになり、前述のように各々就学前教育から小学校4年生までの6種が発行されている。アイルランドにおけるカトリック系の小学校は、すべてこの教材を使用して授業を行っている。

1) 教師用指導書

各学年の教師用指導書は、A4判、300ページほどであり、構成は以下のとおりである。①聖書の教え、②信仰、③“Grow in Love”シリーズの教授法、④アイルランドにおけるカトリック就学前教育、小学校宗教教育カリキュラム(2015)、⑥授業に“Grow in Love”を使うこと、⑦年間計画例、⑧テーマ(9～10のテーマについての詳細な説明)、⑨季節学習、⑩礼拝方法のリスト、⑪引用。

①～⑤は各学年同様の内容、⑦年間計画例、⑧テーマ、⑨季節学習、に関しては、児童用ワークブックと対応した各学年の授業内容が示されている。具体的な各学年のテーマごとに2項目から5項目の内容が設けられている(表2)。4歳児用と小学校2年生用を比較すると、2年生用はより発展した内容であることが分かる。各々の授業内容項目は児童用ワークブックと対応しており、児童用ワークブックのページが示されている。

また、各授業テーマについて説明するページには、授業テーマとカリキュラムとの関係が明示されている。「この授業テーマにおいて、子どもたちが得る知識や考え」が、先に示したカトリック宗教教育カリキュラムの「キリスト教信仰」「神の言葉」「典礼と祈り」「キリスト教の道徳」各領域の細目(表1参照)ごとに、箇条書きで具体的に示されている。

各学年の授業内容には、授業テーマのほかに、「季節学習」が含まれている。4歳児用は、①秋、②11月、③セントパトリック(3月17日)、④Lent(聖灰

の水曜日)、⑤聖母マリア(5月)、⑥夏(7月)、⑦Grow in Love(授業最終週)、2年生用は、①ロザリオ(10月)、②諸聖人の日(11月1日)、③Lent(聖灰の水曜日)④聖ブリジッド(2月1日)、⑤異教徒の学習(第3期間)とあった。

2) 児童用ワークブック

児童用ワークブックはA4判、全64ページ、1つの学習項目につき見開き2ページを使う形式で、30の学習項目を掲載している。挿絵を多く含み、子どもたちが色を塗る、絵を描く、文字、文章を書き込むことなどが可能なワークブックである。各ページの見開きは、左が学校における授業の際に取り組むページ(In School)、右は家庭で学習する宿題のページ(At Home)になっている(写真4)。例えば、2年生用の最初の学習テーマ「我々のクラス—友だちの輪」(表2参照)の学習を行うための児童用ワークブック2ページ「私には友だちがいる!」では、学校での活動は、「あなたが良い友だちであることを示すことが出来る5つの事柄を書きましょう」として提示されている5つの空欄に文章を書き入れ、また、「友だちと一緒にいるあなた自身の絵をかきましょう」として設けられているスペースに絵を描く活動を行うようになっている。一方、3ページ「私の友だち」は家庭学習のページであり、ページに示された友だちに関する詩を家族で読むことが指示されている。家庭学習には家族の協力が必要なため、表紙見開き冒頭の1ページは、「Grow in Love へようこそ、家族の皆

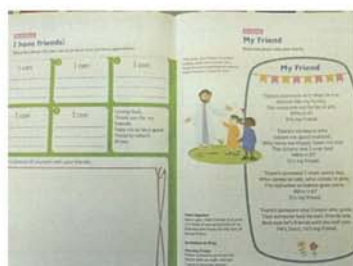


写真4 児童用ワークブックの内容(2年生用)

表2 Grow in Love Teacher's Book の内容項目

4 歳児クラス (Junior Infant) 対象の内容		2 年生 (primary 4) 対象の内容	
授業テーマ	授業内容項目	授業テーマ	授業内容項目
1. 私の家族	私には名前がある	1. 呼ばれ選ばれる	我々のクラスー友だちの輪
	私には家族がある		イエスが仲間を選ぶ
	私は私の家族と愛を共有する		我々はイエスの従者
	すべては一つの家族の中にいる		
2. 我々の世界	神はこの世界を創造した	2. イエス	イエスはシモンペーターの義母を癒した
	神が我々を創造した、我々は特別		イエスはジェイラスの娘を癒した
	我々は世界をケアできる		イエスは従者に愛の法を与えた
	神は我々に良い知らせを与える		ミサで、イエスの従者は互いに集まる
3. キリストの降臨とクリスマス	我々はイエスを迎える準備をする	3. キリストの降臨とクリスマス	旅の準備
	いい知らせ、イエスが生まれる		神のお告げ
	馬小屋への訪問者		イエスの誕生
4. 聖家族	聖家族はナザレに住んでいた	4. ミサで神の言葉を聴く	すべては神とともにいる
	聖家族はエルサレムを訪れた		ミサで我々は聴く
5. イエス	イエスとその子どもたち	5. 和解	選択
	イエスは良き羊飼ひ		ザアカイは悪い選択を行った
	イエスは我々に教える		我々は許すことができる
	我々はイエスの教えのとおり生きる		自身の記憶の中でこれを行いなさい
6. 聖週間とイースター	最後の晩餐	6. ミサで神に感謝し、聖なる伝道を受ける	ミサで神に感謝する
	イエスは十字架の上で死ぬ		ミサで聖なる伝道を受ける
	イースターの驚き		
7. 教会	祈りの場所	7. 聖週間とイースター	神の死
	教会一祈るための特別な場所		神の復活
8. 水	水は素晴らしい	8. 我々は神の願い通りに生きることが出来る	私は常にあなたとともにいる
	水を迎える		私は助けを送る
9. 我々は感謝する	有難う、神様、食物	9. 創造	神の知らせに向かい共有しなさい
	ミサで我々は感謝する		神は我々を創造した
		10. Grow in Love	神は我々に幸せであることを望む
			「私があなたを愛する様に」
			愛の中で育む

Council for Catechetics of the Irish Episcopal Conference "Grow in Love" Teacher's Book (2015)
より筆者作成

さんへ」として、家族向けに、カトリックの宗教教育の目的や概要、ワークブックの目的や使い方、家族への協力のお願いの文章が掲載されている。

(3) 小学校における授業の実際

2017年2月15日、N小学校における宗教教育に関する4年生担任教師への聞き取り調査では、①1週間に2.5時間宗教の時間があり、②毎朝授業が始まる前、昼食の前、昼食の終わり、授業終了時の下校前の4回、お祈りを行うこと、③上述のカトリックの教師用指導書、児童用ワークブックを使用しており、ワークブックを毎週2ページ、1ページは学校で、1ページは宿題として学習すること、④先週はナショナルカソリックウィークで、5年生の児童のクラスに祖父母を招く授業を行った、とのことであった。教室には祭壇が設けられていた(写真5)。

2017年2月16日のU小学校における就学前教育担当の教師への聞き取り調査でも、1週間につき2.5時間以上の宗教教育の時間、1日4回のお祈り、ワークブックを使用する授業内容は同様であった。U小学校でも教室にN小学校と同様の祭壇が設けられていた(写真5)。アイルランドのカトリック系小学校では、アイルランド聖公会が示した教育内容が、おおよそ同様に教育されていることが明らかとなった。

2017年2月22日、U小学校で宗教教育を専門としているS氏が担任する4歳児クラスでは、児童用ワークブックやCD教材を用いた授業を参観した(表3)。小学校ではチャイムはならず、先生の指示により授業が進められていた。毎日、11時50分から12時20分の30分間が宗教の時間である。当日は、上述授業内容の「季節学習」に含まれる「セントパトリックスデー」についての学習であった。この行事は、アイルランドの英雄「セントパトリック」にちなんで毎年3月17日に開催される、アイルランド共和国で最大の国民的行事である。クラスでセントパトリックについて取り上げるのは初めてであったにも拘わらず、S氏が教師用指導書に書かれた物語を読み、問いかけると、子どもたちは声を揃えて答えていた。子どもたちには、「セントパトリックはどこで生まれましたか？」

「働いてお金をもらいましたか?」「彼は何をしたかったの?アイルランドに帰りたかったのでしょうか。」「セントパトリックスデーをどのように祝いますか?」などの質問が投げかけられていた。S氏によると、子どもたちは学校で学んだ経験はないものの、家庭で知識を得ているとのことであった。

当日の授業で使われた季節学習教材の児童用ワークブックのページは、子どもたちが迷路のゲームを行うものであった。ワークブックには、クロスワードパズルや、クイズなどアクティブラーニングの手法を取り入れ、子どもたちが楽しく、主体的に取り組むための工夫がされていた。授業参観した際も、子どもたちは懸命に課題に取り組んでいた。私語をすると先生が注意をして、集中して取り組むよう促していた(写真6)。



写真5 教室に設けられた祭壇(左: N小学校、右: U小学校)



写真6 宗教教育の授業の様子(4歳児クラス)

表3 4歳児クラスの宗教教育授業の流れ

時刻	教師と児童の活動
11:52	グループリーダーがワークブックを教卓に取りに行き、グループの児童に配る
11:55	児童全員は立ってお祈り、先生が前で後ろ向きになってお手本を示す。合掌したり胸に手を十字にあてる、目をつむり神様のことを考える
11:58	蠟燭のビデオをモニターに映そうとするがモニターが上手く映らず、CDをかけて歌をうたう
12:01	セントパトリックについての先生のお話を聴く（指導書244-245ページ）
12:10	先生が子どもたちにワークブックの説明をする。子どもたちはワークブックをまだ開いていない
12:12	歌を歌ったり説明をしながら、先生が児童のワークブックの該当頁（58ページ）を開いて回る
12:15	ワークシートの迷路を鉛筆で書く作業をする。迷路ができた児童には、先生が赤鉛筆でチェックして回る。「素晴らしい！」などと褒める。迷路ができたら、迷路の周りに絵を描くことを指示
12:20	リーダーがワークブックを集めて提出するように指示、児童は作業をやめて、リーダーがグループのワークブックを集めて先生に渡し、教卓横の棚に置く
12:22	きちんと座るように指示。1グループずつ、上着を着るように指示
12:25	すべてのグループが上着を着て着席する。グループリーダー5人が前に出て、歌を歌う、また、手遊びをしながら歌を歌う（2曲目）。お祈りをする
12:27	それぞれの児童が自宅より持ってきたランチを出して食べる
12:40	ランチ終了、校庭に出る。当番の先生が校庭で子どもたちを見守り、それ以外の先生はランチルームでお弁当を食べる

（4）カトリック以外の小学校における宗教・倫理教育

以上、カトリック系小学校における宗教教育について述べた。プロテスタント系小学校でも、カトリックと同様に、プロテスタント教会が作成した教材を用いて宗教教育の授業が行われている。「follow me」シリーズの教科書が各学年向けに8種作成されており、プロテスタント系小学校で使われている（写真7）。

また、多数派ではないが近年設けられている、宗教色のない小学校である「Educate Together primary schools」や「Community National Schools」などでは、宗教教育に代わって「倫理」が教えられている。



写真7 Follow me シリーズ教科書（4歳児用、2年生用）

4. まとめと今後の課題

アイルランドの小学校における宗教教育について、現地調査により明らかにした。その結果、以下の6点が明らかになった。①宗教教育に関しては、国が教育スタンダードを設けず、教育内容は各宗派に委ねられている、②カトリック系小学校では、週に2.5時間以上の宗教の時間があり、朝、昼食の前後、帰りの時間にお祈りが行われている、③宗教の時間には、アイルランド聖公会が示したカリキュラムに準拠した統一教材“Grow in Love”シリーズが使われている、④同シリーズは教師用指導書、児童用ワークブック、CD、ポスターセット、オンラインリソースがセットになり、各々就学前教育から小学校4年生までの6種が発行されている、⑤児童用ワークブックはおよそ週1回見開き2ページが、左ページは学校で、右ページは宿題として学習されている、⑥プロテスタント系小学校でも教会が作成した統一カリキュラムが使われ、宗教色のない小学校では「倫理」が教えられている。

今後は、プロテスタント系小学校の宗教教育、倫理教育についても研究を進めたい。

文献

- 1) 外務省ホームページ「アイルランド基礎データ <http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/ireland/data.html> (2017年9月15日閲覧)
- 2) 高神信一 (2011)「カトリック国家の成立」『アイルランドを知るための70章』明石書店、81-84
- 3) 外務省ホームページ「諸外国・地域の学校情報」
http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/world_school/05europe/infoC50200.html
(2017年9月15日閲覧)
- 4) ヨーロッパ日本語教師会・国際交流基金2006『日本語教育国別事情調査』、149-153
- 5) アイルランド教育・技能省ホームページ (学校制度)
<https://www.education.ie/en/The-Education-System/>
(2017年9月15日閲覧)
- 6) アイルランド教育・技能省ホームページ (小学校)
<https://www.education.ie/en/The-Education-System/Post-Primary/>
(2017年9月15日閲覧)
- 7) アイルランド統計データホームページ (教育)
<http://www.cso.ie/en/education/> (2017年9月15日閲覧)
- 8) 前掲ホームページ5)
- 9) 岩下誠 (2012)「アイルランド公教育の成立をめぐる一研究動向と課題」『教育学研究』79、286-296
- 10) 文部省大臣官房調査統計企画課編 (1995)「アイルランド」『諸外国の学校教育：欧米編』、185-190
- 11) 表真美 (2017)「アイルランド中等教育における宗教教育」『京都女子大学発達教育学部紀要』13、1-10
- 12) 前掲ホームページ3)
- 13) 前掲ホームページ6)
- 14) 前掲ホームページ6)
- 15) Council for Catechetics of the Irish Episcopal Conference, 2015 “Grow in Love Junior Infants Primary 1”
- 16) Irish Episcopal Conference, 2015, Catholic Preschool and Primary Religious Education Curriculum For Ireland
- 17) The Department of Education and Skills, 2015, Education about Religions and Beliefs (ERB) and Ethics in the Primary School: Consultation Paper

<キーワード>

宗教教育 小学校 アイルランド カトリック